

目的 女性が、冬のスーツ地として毛織物服地を選ぶときの条件が何であることを調べた。

方法 色相が1.8 Y Rから3.3 Y Rで、比較的low明度、low彩度の似た色で、組織の異なる無地の毛織物（婦人服地）6種について、好み（冬のスーツ地として）に対する官能検査（Schefféの対比較法別法・順序効果のない場合）と、何故その布が好ましいかという20項目についてのアンケートを行ない調べた。被検者は、20才、21才の女子大生48名である。また、その毛織物の性能も測定し、検討した。

結果

1. 布の好みについて1%以上の高水準で有意差が認められ、布の選択の一致性が認められた。ウールギャバジンは、他の5種類よりもかなり好みの程度が高く、ジョーゼットやフラノは好まれなかった。
2. 織物の色と組織が、選択時の最大条件と見られる。
3. 冬のスーツ地としても、布地が厚い、暖かいなどの条件よりも、活動的、肌ざわりがよいという条件で選ばれている傾向である。